

CONTENTS

自作自演199 ..... 尾関利勝・横関 浩・鈴木 武 ..... 2

東海とっておきガイド(86) 愛知編 ..... 河合 誠 ..... 3

第5回 フランスと日本の関係~対外文化政策のいま~  
在仏日本人会の芸術活動 -パリの在留邦人たちによるネットワーク- 松本茂章 ..... 4

2015年度リフレッシュセミナー参加者レポート ..... 相原宏康・吉村昭範・中澤賢一 ..... 6

愛知発 西三河地区会 「愛知西三河地区会例会」レポート ..... 西村和哉 ..... 7

岐阜発 JIAの窓 まちづくりをテーマに講演・意見交換..... 大瀧繁巳 ..... 8

愛知発 法人協会主催 CPD研修会  
環境・エコ・災害対策に向けた各社の取り組み ..... 小山伸治 ..... 8

愛知発 JIA実務セミナー  
モンスタークライアントとのトラブルに備える ..... 畠山成好・勝濱大輔・村上貴彦 ..... 9

三重発 建築ラリー2016 建築ウォッチング・講演会・シンポジウムを開催  
..... 村林 桂・川崎貴覚・豊田由紀美・伊藤達也 ..... 10

▶東北からのメッセージ  
復興の現場を通して見え始めた私たちの社会の課題 (後編)..... 手島浩之 ..... 12

東海支部役員会報告 ..... 村松 篤 ..... 13

保存情報 第173回 料亭 河文 II ..... 中澤賢一 ..... 14  
恒川織物 ..... 野々川光昭 ..... 14

Bulletin Board ..... 15

地域会だより ..... 15

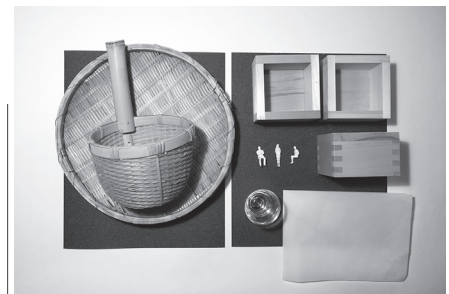
編集後記 ..... 黒川喜洋彦・伊藤恭行 ..... 16

スケールと幻想

1



今年度、縁あって表紙を担当させていただくことになりました。1年間よろしくお願いたします。さて表紙の写真のタイトルは「スケールと幻想」です。家にある家庭用品を使って空間を発見していくという試みです。今回使用したのは、添付の画像のとおりの日頃私が家で使っているキッチン用品などと1/50の人物模型です。ひとつひとつはコップだったりザルだったり枡だったり味噌こしだったり紙やすりだったりトレベだったりするのですが、それらの集合体がただのモノに見えなくなったとき、もしかすると空間が生まれているのかもしれない。「いつも見ているはずのモノたちに別のスケールを持ち込むことにより、まったく別の世界を感じることができるのか？」という私の妄想がこの試みの出発点です。できるだけ家庭用品を加工しないでそのまま使い、スケール感・素材感・光と影については(建築家として)真面目にコントロールしようと努力しています。このような普段の家庭用品の集合体から、一時の幻想を楽しんでいただけたら幸いです。





## 尾関 利勝 (JIA愛知)

アルバック／地域計画建築研究所 名古屋事務所  
(名古屋市中区錦1-19-24 TEL 052-202-1411 FAX 052-220-3760)

### 私の息抜き、酒、たばこ、唄

自分の仕事を聞かれると説明するのに戸惑う。まちづくりと言うこともあるが、まちづくりの定義はまちまちで内容は幅広い。近頃はコミュニティ・デザインということもある。地域の人々と協同する場合は良いが、ダイナミックな都市開発や再開発、ランドスケープデザインには必ずしも向かない。

もともと万能の建築家を志した欲張りだからスタンダードは多様が良いと考えている。問われれば、その場に併せて適当にお答えする。正確に伝えるには自分史を含めて説明にとんでもない時間がかかる。だから適当が良い。

本業では歴史を活かした地域～都市再生をコンセプトにしている。スクラップ&ビルドもときには必要だが、成熟社会の日本の未来には、その地に根ざすアイデンティティを鮮明にすることが時代に合った価値観だと主張し続けている。だから名古屋城の再生にこだわる。

そんなことをしているとあらゆる場面で公私混同～滅私奉公のような生き方になり、家族には迷惑この上ない粗大ゴミになっている。

同様に趣味はと聞かれても元来が欲張りだからあらゆる事に興味があるものの、これと言って特定のことにまるともなく、答えられない。あえて言えば夜行性の生活で、酒・たばこ・唄と言うことになるか。

学生の頃、集会でギターを持って唄い、京都に就職して祇園町で弾き語りをもてはやされた気分が忘れられず、10年ほど前から錦のピアノバーやライブで20年ぶりに弾き語りを復活、ギャラリーの前で唄うのは気持ち良い。これがちょっとした息抜き。

それやこれやでクラシックからポップス、ストリートまでミュージシャンとのつながりが広がっている。それがまた面白いからやめられない。



## 横関 浩 (JIA愛知)

STANDS ARCHITECTS (名古屋市中区千代田1-10-28 1B303 TEL 052-243-0657 FAX 052-243-0658)

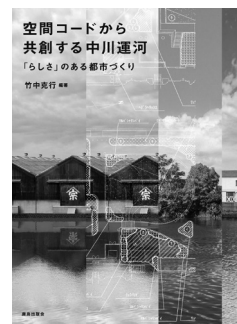
### 空間コードから共創する中川運河 「らしさ」のある都市づくり

地域レベルの空間デザインを、その場らしくするにはどうしたら良いか。景観コードやデザインコードによって、縛る方法もあるが、表面的なデザインコードによって発想の自由さを奪われ、辟易している人も多いだろう。もっと建築家の力を信じて自由にさせて欲しいと思うが、案外、「らしさ」を理解するのは難しい。結局、他の場所の成功例が引用され、その場らしくないデザインが持ち込まれるなんてことが多いのではないだろうか。

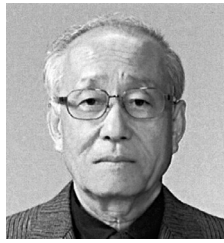
中川運河には、この場所独特の「らしい」空間が広がっている。しかし、運河沿いの建物所有者はデザインや雰囲気を揃えようなどとは思っていない。これはどういうことだろうか？ きっと無意識にその場らしさを選択してしまうような、根元的な空間の特質、デザインのより上流に存在する見えない力があるはずだ。それが明らかにされれば、前述の問題もかなり軽減されるのではないだろうか。

この「らしい」空間を生み出す見えない力が、空間コードである。本書では、中川運河らしい空間を生み出した見えない力「空間コード」の可視化を行い、まずは「らしさ」を生み出すものへの理解を深め、その後の実践的な展開のために、新たな空間コードの見つけ方や、実際の現場での活用方法についても踏み込んで記述している。

地理学者を中心に私も含め複数の専門家が、フィールドワークを繰り返しながら2年以上をかけ、見つけまとめた、「らしさ」を生み出す力＝空間コード。中川運河だけでなくさまざまな場所でこのツールは活用できるのではないかと思う。現在、Amazonで入手可能。



竹中克行編著 鹿島出版会



## 鈴木 武 (JIA静岡)

日本建築専門学校非常勤講師 (静岡市清水区大手1-7-7 TEL/FAX 054-366-6437)

### わが師への恩

先日、友人5人で高校時代の恩師を訪ね雪の新潟長岡へ行ってきました。先生は83歳、先年奥様に先立たれ独り暮らし。墓前に花を手向けた後、先生を連れ出し奥只見湖近くの「大湯温泉」に泊り新潟のうまい酒を酌み交わし翌日はJR只見線で雪見列車と楽しいひとときを過ごしました。私たちの高校3年時は60年安保闘争の真ただ中、先生から受けた高揚した社会情勢や「ものの見方・考え方」などが私の基底にあります。そんな師弟仲間、酔うほどに饒舌になり昨年からの安保法制 (= 戦争法) にみる国会審議のあり様についてや立憲主義、民主主義、基本的人権とは何か……など。今、平和憲法が危ない! 戦前ドイツでは当時最も民主的だと言われたワイマール憲法下においてヒトラーが「全権委任法」を強引に成立させ絶対的権力を掌握、言論を弾圧し、あのナチスドイツによる独裁国家への道を進んだ。3年前内閣の重鎮がナチスドイツの手口に学んだら、と発言しバッシングを受けたがまさにその手法通りが目の前に迫る。時の権力を縛るためにある憲法を、時の権力が勝手に解釈を変えてしまう、憲法を改正し「非常事態条項」を創設し本丸は9条の改正、自衛隊を国防軍とし公然と戦争のできる国にする。こんな国にお前たちはどうする!! 温和な師の気概に衰えはなかった。ストーリーを描く安倍総理の仰ぐ師とは誰だろう?

かつて大先輩に人生訓として「二師三兄五友五弟」を持ってと中国の古いことわざを教わった。時に振り返るとき、私は実によく師・先輩・友人に恵まれ支えてもらって来たことに感謝せずにはいられない。二師三兄五友はすでに優に超すと自認できるが残る5弟が問題。私を兄、友と慕ってくれる後輩はいるのやら? 只々鍛錬あるのみか試練は続く。

## 東海とおきガイド 86 | 愛知編 |

河合 誠 (中部ビューティ・デザインカレッジ)

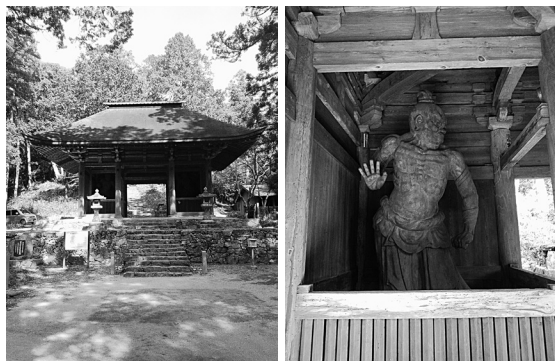


### 財賀寺の仁王像と仁王門

豊川市の西北部に位置する財賀寺は真言宗の寺、創建は724年で仁王像は11世紀造立、鎌倉時代に七堂伽藍を備え隆盛期を迎えたが、応仁の乱に巻き込まれ焼失した。仁王像は東大寺南大門のそれを遡ること70年前の作で、身の丈は南大門の像に次ぐが、年上の仁王像と財賀町の古老は胸を張る。

仁王像を安置する仁王門は椋皮葺きの平屋造、寺領の林にある檜や松栗の木を建設資材としたという。現在使用されている檜の柱は平成10年に文化庁の改修工事で補われた。改修から18年、椋皮葺きの屋根からは雨漏りがあり、仁王像にカビが発生している。清々しい佇まいを後世に伝えるために、何かしなくてはならない思いが胸に迫る。

日曜日には、仁王門守(?)の刀鍛冶職人のハタナカ氏が、長い杖でしめしながら物語を語り、(少々長話になることをお覚悟ください)。



仁王門と仁王像

### ヤマサちくわ直営店のおでんランチ

豊橋市は東三河地域の中核市、この地でヤマサちくわは180余年の歴史を重ねた老舗。その直営店がJR・名鉄豊橋駅に連結するホテルアークリッシュのココラフロント1階にある「ねりや花でん」。

昼の薄味おでんランチ (790円)、味噌おでんランチ (890円) がお薦め。おでんネタは大根・卵・白はんぺん (半月)・イカ巻き・ブロッコリー・豆腐。小鉢はちくわとイカとたまねぎの酢の物、そして厚焼き玉子1切れ。ご飯と赤だしの味噌汁、お新香。

今日は取材なので、三種ねりもの盛合せ (620円) を追加、写真では手前のお皿に特製ちくわ (1本分)、蒲鉾 (3切れ)、帆立焼蒲鉾 (4切れ) それにビールとくれれば最高でしょ! 私は下戸なのであしからず。



薄味おでんランチ+  
ヤマサ三種ねりもの盛合せ  
●「ねりや花でん」  
豊橋市駅前大通1-55  
ココラフロント1F  
TEL 0532-57-6177  
ランチタイム  
11:00~14:30  
夜営業  
17:00~23:00





## 在仏日本人会の芸術活動 —パリの在留邦人たちによるネットワーク—

松本茂章 | 公立大学法人 静岡文化芸術大学文化政策学部教授

### 4つめの事務所

パリにある在仏日本人会の事務所が2014年12月に移転したというので、2015年9月2日の水曜日、16区の新しい事務所を訪れた。メトロ9号線のアルマ・マルソー駅で下車。地上に上がるとセーヌ川のそばに出る。周囲は閑静な住宅地である。アルマ通りを北に歩いて3-4分。レトロな建物の地上階と地下1階に同会事務所が入居していた。木製ドアを開けると、カウンター越しに事務局長の高橋幸隆（1957年生まれ）が出迎えてくれた。「引っ越し前に比べると狭くなったが、駅から近くていい場所」と笑顔で話す。地上階に執務室と語学教室。地下に語学教室と作業室。広さ58平方メートルの月額家賃2500ユーロである。以前は130平方メートルの月額家賃5000ユーロだったので、より安い物件を探した。

在仏日本人会は仏国1901年7月1日法に基づいた非営利組織（アソシアシオン）である。1958年に設立されたものの間もなく休眠。1975年に再建されて以降、年6回の会報発行や各種の相談業務、講座、クラブ活動など、在留邦人向けの生活サービスを地道に続けてきた。事務所は当初、8区のモンソー公園近くのアパルトマン（1981年まで）に置かれ、次いで16区のシャンゼリゼ通りに面したビルの5階（2008年まで）に、3度目が同区のシャイヨー通りの一角（2014年まで）、そして現在地に至る。

2015年9月現在、法人会員と個人会員

は各1000世帯。合わせて約2000世帯の約6000人が加入している。パリおよび近郊（イル・ド・フランス地域）の首都圏では、正規滞在とオーバーステイを含めて約3万人の邦人が暮らしているとされ、ざっと5分の1が組織化されている。日本人会の事務所というと、異国の地で邦人同士が情報交換を深めるところ。壁面一杯に「電気製品譲ります」「空き部屋あります」「家庭教師をします」「アルバイトを探しています」など張り紙のあるイメージが強い。しかし現在の事務所には張り紙をするスペースが見当たらなかった。インターネットやSNSの普及で、事務所を訪れなくても情報交換ができるようになったからだ。それは入会する邦人が減ることを意味する。会員数の減少は会費収入の削減につながり、財務は火の車なのだ。

### シャンゼリゼ通りの27年間

日本人会の活動が盛んだったのは、日本経済が強かった1980年代後半から1990年ごろにかけてである。数多くの日本企業がパリに進出した。現会長の浦田良一（1939年生まれ）（元日立フランス社長）によると、会員は1万人を超え、シャンゼリゼ通りに面した事務所（1981-2008）は、赤テントで知られる著名カフェ「フーケッツ」が1階で営業する建物の5階にあり、邦人が盛んに出入りしていた。入居前は廃墟同然で、自ら改装する代わりに相場価格の3分の1の割安家賃で入居できる好条件だった。当初は152平方メートル。1988年に

同階の33平方メートルを借り足して計185平方メートルに広がった。このうち語学教室2つを区切る蛇腹式カーテンを開けると50平方メートルのホールに早変わりした。

浦田や当時の関係者の話を総合すると、広いスペースに注目したのが洋画家の佐藤亜土（1936-1995）である。「美術展に活用できる」と考え、日本人会に対して「展示に使わせてほしい」と美術仲間を代表して要望した。佐藤はパリの著名美術館で個展を開く実力者だったが、今でいうアートマネジメントの才覚があった。東京銀行パリ支店に交渉してショーウィンドウ（高さ2.5メートル、幅3メートル）を若手美術家の作品展示に活用できるように話をまとめたこともあった。こうした実績を踏まえて当時の会長、小島亮一（1902-1992）が事務所の展覧会使用を認めた。日本人会の下部組織として1981年、日本人美術家で構成する日本人アーティストクラブ（NAC）が発足した。同クラブ会員ならば展覧会を開けるように窓口を一本化した。NACの展覧会は定期的で開催され、自分たちで会場設営、展示、運営、表彰、撤去、カタログ制作を担当した。しかし事務所移転に伴って部屋のスペースが狭くなり、展覧会を開くことは難しくなった。NACの展覧会は現在、政府系のパリ日本文化会館（15区）や民間の天理日仏文化協会（2区）などで続けられている。

### 初代会長は異色の文化人

再建後の初代会長、小島亮一（1902



上 | 事務所では日本語の新聞を読むことができる。常駐する事務局職員2人が笑顔で迎えてくれる(筆者撮影)  
 左 | 在仏日本人会が入居する建物。地上1階と地下1階に事務所が置かれている(パリ16区で。筆者撮影)

—1992)(会長在職1975—1992年)は異色の人物である。東京・青山の呉服問屋に生まれ、1932年に渡仏してパリ大学社会学科に学んだ。1934—39年には国際労働機構(ILO)(ジュネーブ)に勤務。1939—45年は同盟通信社(共同通信社の前身)記者になり、ヴィシー政権のあった地方都市ヴィシーに赴任。マドリッド特派員で終戦を迎えた。戦後は仏人夫人と農業をしたあと1950—66年に朝日新聞パリ特派員とパリ支局長を務めた。退職後もパリ暮らしを続けた。随筆『ヨーロッパ手帖』で第10回日本エッセイスト・クラブ賞(1962)を受賞した。交際範囲が実に広く、企業人、芸術家らと分け隔てなく付き合い、佐藤亜土とともにNACを発足させた。日本人会の元事務局長、岡本宏嗣(1943年生まれ)は「絵描きや音楽家らと仲良かった。日本人会では芸術家も活躍してほしいと願い、個人で渡仏した日本人を守りたいとお考えだった」と振り返る。

岡本によると、小島は亡くなる前に実家の土地(東京・青山)を売却し、一部である1億円の寄付を申し入れた。1989年12月、「公益信託 在仏日本人会小島亮

一基金」の設立が認められ、日本側の信託銀行が受託者となった。「運用利回りを在仏邦人の生活向上、日仏交流推進のために助成金や奨励金、奨学金として広く配布しようというもの」(同会会報)で、活動助成と研究奨励の2つにわかれていた。基金は1億円なので金利5%とする。ところが1990年代半ばからは、日本のゼロ金利政策の影響を受けて、運用利回りが期待できなくなり、基金を取り崩して配分した。目減りが著しくなり、2007年3月をもって基金は終了した。基金からは、NAC展覧会カタログ制作費なども含めて、18年間で計145件、総額約6550万円が助成された。

### 日本文化センター的な役割を果たして

上記から、シャンゼリゼ通りに事務所があった時代の在仏日本人会には、①芸術に精通したアートマネジメント人材が存在した②自分たちで場を自主管理した③小島基金という独自の財源を有した④表彰や賞金を通じて若手作家を育成し

た——などの事実が浮かび上がった。小規模といえども日本文化センター的な役割を果たしていた様子が判明した。日本政府が1997年にパリ日本文化会館を設置する以前は、在仏日本大使館の広報文化センター(凱旋門近く)と並んで、在仏日本人会事務所がわが国の芸術文化を欧州に発信する場の1つだったと再評価する声もある。日本人会の試みはもっと再注目されているのではないだろうか。

「芸術の都」らしく、在仏日本人会には芸術家が数多く在籍し、美術家の集う下部組織が存在する点は、他の世界主要都市と比べても独自性がある。会長の浦田良一は「パリにある在仏日本商工会議所の会員と日本人会の法人会員は重なるが、企業人の赴任と異なり、自らの意思で渡仏してきた個人会員には日本人会のサービスしかない。これからも何らかの形で芸術家たちを支援する在仏日本人会でありたいと考えている」と語った。

(敬称略)



まつもと・しげあき

早稲田大学教育学部卒、同志社大学大学院総合政策科学研究科博士課程(後期課程)修了。博士(政策科学)。読売新聞記者、支局長を経て2006年4月から県立高知女子大学教授(現、高知県立大学)。2011年4月から現職。日本アートマネジメント学会会長、日本文化政策学会理事、NPO法人世界劇場会議名古屋理事。単著に『芸術創造拠点と自治体文化政策 京都芸術センターの試み』(2006)、『官民協働の文化政策 人材・資金・場』(2011)、『日本の文化施設を歩く 官民協働のまちづくり』(2015)(いずれも水曜社)。



■第1日目

静岡県熱海市にある熱海リフレッシュセンターにて第19回JIAリフレッシュセミナーが開催されました。今年度は「なぜ、今コルビュジェか？」をテーマに講義やディスカッション、プレゼンテーションを行いながら進められました。

1日目、セミナー1として山名善之氏により「世界遺産としてのコルビュジェの作品」の講義が行われました。お話では、コルビュジェの建築を個々の建物としての価値で世界遺産に登録するのではなく、コルビュジェの作品としての価値での世界遺産登録を目指しているとのことでした。コルビュジェの建物がどれだけ世界遺産に値するものなのか？ 世界遺産への登録についての必要な事項などいろいろな難題を順々にクリアしながら、今3回目の申請を行っているところだということを裏話も交えながらお話いただきました。

その後には参加者も含めてのディスカッションへと進み、個々の自己紹介をコルビュジェの作品への思いや評価、講義の感想などを含めながら行いました。私自身は、コルビュジェについて何も分からない状態での参加で難しい講義ではありましたが、分からないなりに良さ知識をいただけたのではと感じています。夕食時の懇親会からネットワーキングセッション1にかけては、東海支部はもとより全国の方々といろいろなお話ができる貴重な時間を過ごし、初日を終えました。

相原宏康 | Hiro設計室

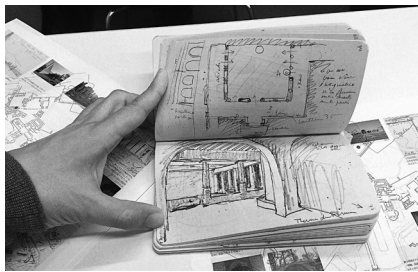


■第2日目

2日目は、朝食後すぐに富永譲先生の講義が始まりました。講義のテーマは、「ル・コルビュジェ：24才の旅のスケッチブックについて—その場所を訪ねて—」。タイトル通り、コルビュジェがイスタンブールやイタリアあるいはギリシャなどを巡った旅の中で、24歳の建築を夢見る青年が自身のスケッチブックに描き留めたスケッチの場所を富永先生が実際に訪れ、スケッチとほぼ同じ写真を撮影しながら当時のコルビュジェが考えたことを分析する研究に

ついてお話しいただいた。そのような研究旅行自体がとてもユニークな試みであり、若いコルビュジェの当時の「気づき」が晩年に与えた影響が次々に浮かび上がる考察と、スケッチ群が繰り出す独特の映画的なシークエンスの数々には驚くばかりであった。その後の山名先生を交えた質疑応答でも、コルビュジェ自身にとってこの東方への旅が持つ意味の大きさを知ることのできる議論であった。

その後、昼食を挟んで2時間の自由時間を経て、参加者4人ずつ4グループに分かれてディスカッションをおこない、各グループがA1の模造紙に成果をまとめた。発表は翌日の朝ということだったので、成果の仕上げが夕食後に持ち越されるグループも見られた。



上から | コルビュジェのスケッチブック（複製版）  
グループディスカッションの様子  
プレゼンテーションの様子  
参加者集合写真

夜の懇親会では、2日目ということで、参加者が徐々に打ち解けた間柄になっていたせいか、和気あいあいとした酒の席になり、北は北海道から南は鹿児島や沖縄の話題と、それぞれの地方の自慢話で盛り上がった。

吉村 昭範 | D.I.G Architects



■第3日目

3日目は朝食後、早々に150分のネットワーキングセッション。前日に班分けされた4班で30分ずつのプレゼンテーションを行いました。

テーマ（タイトル）は発表順に、B班「コルビュジェの生涯から学んだことと建築家としての私たちの決意」（佐々木 [九州]・喜多 [北陸]・澤村 [北海道]・中澤 [東海]）、A班「なぜ今コルビュジェなのか？」（山下 [中国]・石村 [北陸]・下崎 [関東]・齋藤 [北海道]）、D班「コルビュジェ24才の旅の目線」（副田 [近畿]・相原 [東海]・中村 [東北]）、C班「建築の素形とは何か？ ～コルビュジェのスケッチを通して～」（小林 [沖縄]・榮 [近畿]・吉村 [東海]・福士 [東北]）。

全体を通してキーワードは「旅」「スケッチ」「工業化」「素形」「保存」でした。一見遠い存在にも感じるコルビュジェという20世紀の巨人を切り口に、建築家としての私たちの立ち位置を見直す、そんな議論になりました。

セミナー終了後は希望者が集まってブルーノ・タウト設計の「旧日向別邸」を見学。大学のゼミ合宿を思い起こす建築理論(?)にどっぷりと浸かった3日間でした。

地域の枠を超えて15名の参加者が、豪華な講師・委員の方々とともに同じ場所で3日間という多くの時間を共有したことで、日頃の業務では得られない大変貴重な経験をさせていただきました。今回得た多くの縁を、今後のJIA活動と設計業務に活かしていきたいと思えます。支部・地域会の皆さま、ありがとうございました。

中澤賢一 | 堀内建築研究所



## 「愛知西三河地区会例会」レポート

3月4日(金)豊田市にて西三河地区会例会が開催されました。

### ■ とよたエコフルタウン見学会

講演会①「ミライのフーズを目指そう【環境先進都市とよた】」

講師:豊田市役所 環境モデル都市推進課 酒井氏

豊田市は、産業とともに誰もが無理なく無駄なく快適に低炭素社会に暮らすことができる「環境モデル都市」として国から選定されています。「交通」「産業」「森林」「民生」「都心」の5分野に重点を置き、人と環境と技術を融合させる「ハイブリッドシティ」を実践しています。そのモデル地区である「とよたエコフルタウン」は、次世代の環境技術を集約し、低炭素社会の実現に向けたさまざまな取り組みを紹介する情報発信拠点です。

スマートハウスは太陽光で発電、それを蓄電し、モビリティの充電やエネルギーの最適制御で節約します。また省エネ効果を見える化し節約効率を高め、太陽光・深夜電力・蓄電池のどの電力をいつどれだけ使用するかを自動制御します。電力を「売る」というより各家庭・地域内でのエネルギーの「地産地消」を目指し、これらの効果で実証ではCO<sub>2</sub>は55%カットされているそうです。

交通面では、次世代自動車の普及に先駆け市内に充電施設や水素ステーションを建設し、端末交通として超小型EVのシェアサービスや都心部における次世代パーソナルモビ

リティとして立ち乗り型乗り物「ウイングレット」を短距離型の新たな移動手段として検証しています。また、歩行者の安全をより考慮した電光表示や電光交通環境システムも導入しています。

今回はエネルギーに重点を置いた見学会でしたが、間接的には省エネにつながるヒートアイランド現象の緩和に役立つ植物栽培ユニットや壁面緑化、保水性舗装についても実践されていることに注目したいです。

講演会②豊田市駅前通り北地区第一種市街地再開発事業

講師:豊田市役所 都市再開発課 恩田氏

2017年度に完成予定の駅東に隣接し接続されるビル3棟の新築です。西端駅寄りに商業・業務棟、東端に超高層住宅棟、そして中央に高齢者施設棟を配置します。また下水熱を活用した給湯システムを国内初採用事業化しています。高齢者施設棟は24時間給湯需要があり、システムが運転されるため工費を早期回収(約11年)することが可能とのことです。また、「とよたエコフルタウン」で見られた交通環境システムも設置され実践される予定です。

### ■ 逢妻交流館にて

講演会③「スマートコミュニティの現状と今後」

講師:デンソー事業開発室 金森淳一郎氏  
「マイクログリッド」は既存発電所からの電力にほとんど依存しない、独自のエネルギー供給源を持つ小電力を対象とした「エネルギーネットワーク」です。震災時に求められる

照明と情報(携帯・ラジオ)、これらに要する小電力を最低限独自で確保する目的もあります。

電化製品が「つながる」「しゃべる」、そして電気が「見える」—これらの管理はスマートフォンなどの端末によって行われますが、高齢化社会の中で、このような複雑なシステムが安全かつ容易に受け入れられ、機能していくのがこれからの問題点であると感じました。またこれらの設備は、現在は補助金を利用し推進しており、一般認識を高める段階ではありますが、イニシャルコストが上がるのは必然となる中で、すべての人々にとっての標準となるまでは、更なる技術の開発、ローコスト化が求められると思われます。

建築、特に意匠を主たる職としているわれわれには、今回の題材は身近でありながらもなかなか向き合えない世界であります。設備だけでなく、さらに注目すべきはその取り組みです。日本で一番のものづくりのまち豊田市だからこそ実現できるプロジェクトなのかもしれません。「車」だけでなく、未来の「街」として世界をリードしようとしています。「何も考えないのではなく、考えを持って10年後を目指す」。その構想、企画、技術開発、組織、取り組み、展開、実践、検証と想像を超える多大なる時間と労力に感心させられるとともに、これからの未来に対する自分の立ち位置についてもあらためて考えさせられる機会となりました。

本来は西三河会員との親睦を深める会であるはずが、なかなか西三河会員が集まらなかったことは残念でした。今後は活力のある東三河会員との連携をとることで、活発に展開していくことを期待しています。



上 | 講演会の様子  
左 | とよたエコフルタウン見学会にて



西村和哉 |  
h+de-sign/architect



## まちづくりをテーマに講演・意見交換

2016年2月5日、岐阜市美殿町のコアで「JIAの窓」が開催された。会員以外の設計事務所から3名、学生1名、会員・会員事務所のスタッフ、そして法人協力会員の計24名が参加。「JIAの窓」は岐阜地域会のメイン事業で、ゲスト講師の講演とその後の質疑応答・意見交換を行う内容で継続開催している。

今回は「まちづくり」をテーマに栗本真壱さん



熱心に話を聞く参加者たち

(栗本設計所)とJIA会員の車戸慎夫さんに講演をいただいた。第1部では、栗本さんから歴史ある建物の再利用について、昭和8(1933)年に建築された尾西繊維協会ビルで行われている「アール・マテリアルプロジェクト」による“価値の循環”の試みを氏が主宰する「勝手にオープンアーキテクチャー(KATTE)」とともに紹介いただいた。このほか名古屋市金山のピロティ住宅、M式水耕研究所など興味深い建築を紹介いただき、活動のコンセプトである「建物のしあわせな状況をつくること」という言葉がとても印象的であった。第2部では車戸さんに大垣市のまちづくりについて、駅前地区を中心に大垣の歴史と将来像について

講演していただいた。「まちづくり」についてお二方から対照的な講演をいただいた後、CPD制度と改定の概要について支部CPD評議会の藤井会員から話をしていただいた。17時15分から19時過ぎまでの講演会終了後、懇親会で親睦を深めた。

盛りだくさんの内容に、時間が足らなかった感があったが、この事業が今後も一般の方にJIAを知っていただく機会となり、また会員、会員スタッフの研鑽の場として継続することで会員増強につながればと切望している。

大瀧繁巳 | 金華建築事務所



## 環境・エコ・災害対策に向けた各社の取り組み

<講演企業>タジマルーフィング株式会社・

株式会社岡村製作所

<参加者数>会員20名 法人協力会員18名

### ①株式会社岡村製作所

#### 【オフィスの地震対策「災害対策」】

講師：島 行男氏

東日本大震災を教訓に、いざ地震が起きても被害を最小限に抑える努力を常日頃から行っておくことの重要性をお話いただいた。オフィスにおける地震対策を主に説明していただき、人命と情報・資産を保護するために、家具のレイアウト見直しや固定方法を写真で見せていただいた。被害を最小限に抑えるカギは地震が発生するまでに対策と準備をどれだけ具体化できるかであり、地震のメカニズムや今後の予測、震度階級の度合い、建物の耐震・制震・免震構造、消防法の改正などについて

も説明いただいた。

最後に防災科学研究所で行われた高層ビルが長周期地震に見舞われた想定の実験映像で、対策を施したオフィスと施していないオフィスの実際の被害の差を見させていただいた。

### ②田島ルーフィング株式会社

#### 【床の不具合事例と対策「安全・安心」】

講師：宮木 健吾氏

塩ビ床材を施工するにあたって起こりえる、汚染や割れ・膨れ・磨耗・突き上げ・変色などの不具合のメカニズムを事例写真を通じて詳しくご説明いただき、その対策と改善方法をお話いただいた。中でもより詳しく説明いただいた塩ビ長尺の膨れは、①湿気②荷重③特殊下地(非吸湿性下地)—によるものがあり、①については地下水上昇下地などの詳しい説明とそれを解消するための特殊脱気シート工

法での対策、②についてはキャスターなどの外部要因や床材自体の限界強度・接着強度不足・下地強度不足の詳しい説明とそれを解消するための耐荷重用工法(移動荷重用フロアシステム)での対策、③については金属下地やプラスチック系下地など、特殊下地の種類の詳しい説明と折れに伴って起こる接着剤の硬化不良や下地の強度不足を説明いただき、それぞれのケースについて強接着剤の使用や下地ワックスの事前剥離などの対策をお話いただいた。最後に階段などでの事故防止に関して、床材の色分けによる視認性の向上など、床材のできる対策についてお話をいただいた。

小山伸治 | 東リ(株)名古屋営業開発課





## 古澤弁護士を招いて モンスタークライアントとのトラブルに備える

振り返ると、研修委員会企画のJIA愛知実務セミナーは、意匠設計者向けに2011、2014年は構造、2013年は設備に関するものでしたので、2015年度は研修委員会で議論して法規に関するセミナーをやっという事でまとまりました。検討の結果、新しい試みとして事前にアンケートを実施、それを古澤弁護士が分析して第1回目を、2回目は先生から参加者に出された事例課題をもとにワークショップを行うというものでした。委員長の私としても、どのようなセミナーになるのか期待と不安が入り混じった気持ちでしたが、難しいテーマにもかかわらず古澤弁護士より具体的でわかりやすい説明があり、実務に役立つ知見を得ることできました。特にワークショップは会員相互の交流にもなったと思います。参加者延べ71名、懇親会も20名の参加があり盛況でした。最後に、セミナーに協力くださった委員の皆さまには、本当に感謝申し上げます。



嶋山成好 | 嶋山都市建築事務所

### ■第1回セミナー

第1回セミナーでは、講義形式にて基本的な建築紛争の構図・具体的な紛争パターンの事例を図表などを用いてご説明いただきました。

私は受講前、建築家の法的責任の範囲を明示していただけるような内容を期待していたのですが、先生のご説明を聞いていくうちに、そんな考えでは紛争は防げないと思いき知らされることになりました。

そもそも紛争が起きるかどうかは、建築主・設計監理者・施工者各々の思惑の違い、常識の違い、説明の仕方の問題、トラブル初期の対応の仕方などによるもので、必ずしも法的責任の有無とは関係ないのです。つまり法的責任がなくても紛争は生ずるのです。

さらにモンスタークライアントともなれば、意図的に理不尽なトラブルすら引き起こしてくる。だから、その対応を考えていく必要があります。具体的な対応としては、正しい技術によるモノづくり、適切な事前説明、書類(記録)の整備などは当然として、建築主に過度な期待を持たせすぎないよう話を進めていくことが大切ですと繰り返しご説明いただきました。

次に、それらの紛争が大きくなると訴訟になり、そうやって初めて法的責任の範囲が問題になるわけですが、法的責任の有無は、その問題が『瑕疵』なのか『不具合』なのかによって判断されるそうです。『瑕疵』とは「業界の慣習として当然有する性能を有していない」あるいは「当該建築主の要望(本旨)を満たしていない」ものを言うそうで、それ以外は『不具合』ということになります。そして現在、訴訟に発展した場合、施工会社と設計監理者をセットで訴えるというのが弁護士会での常識的な考えになりつつあるそうです。それらを踏まえて、設計監理者として重要なことは、トラブル初期に、安易に『不具合』を施工会社の『瑕疵』であるなどというような話をしないことです。施工会社が敗訴となった場合に、設計監理者もセットで責任を負わされることになり可能性が高いからです。



第1回セミナー風景



第2回セミナー風景

以上、大変重たいお話に会場はどんよりとした雰囲気でしたが、最後に先生は、それでも頑張って良い仕事をされている建築家の側に立って仕事をしていきたいのですと、熱い思いを語っていただき、私たちも一層頑張らねばと身の引き締まるセミナーとなりました。



勝濱大輔 | 勝濱建築研究所

### ■第2回セミナー

第2回セミナーでは2つの事例をグループディスカッション形式で検討しました。第1回セミナーで学んだことを受けて、「瑕疵」と「不具合」の違いは不明確になり得ること、建築主・設計監理者・施工者各々の思惑の違い、建築家の建築主・施工者の間に立っているという立場の危うさ、などについて事例と討論を通じて疑似体験をしました。参加者は基本的に建築家で同じ立場の人間ですが、建築家それぞれにも考え方があることに気付き、明確な正解がないことが実感できました。

加えて、工事の過程(平常時)、工事の完成引渡し前(危機時)、訴訟に移行した場合(紛争時)などのフェーズを意識させていただき、それぞれのフェーズごとにポイントとなることを整理する機会となりました。モンスタークライアントの見極めが重要だと思います。

問題提起として、建築家の平常時の業務は、建築主・施工者の利益相反のつぼに挟まれながら、建築家としての主張をし、商行為として建築主の欲求を満足させることが多いと思います。そうした中で、近頃は「私は素人だから分かりません。」という言葉が聞く事が多くなりました。建築主と建築家の距離が大きくなっていることが気が掛ります。



村上貴彦 | 士(サムライ)

## 建築ウォッチング・講演会・シンポジウムを開催

1月23日(土)～2月7日(日)にかけて、JIA三重地域会主催の「建築ラリー」が開催された。

### ■1月23日(土) 建築ウォッチング「建築家と松坂を歩こう」

建築ラリー第1弾として1月23日に建築ウォッチング「建築家と松坂を歩こう」が開催され、一般参加者13名を含む26名の参加があった。

かつて、お伊勢参りの人々で賑わった松坂は、戦火を免れたこともあり往時の風情をどめるまち並みが点在している。一行は、旧参宮街道沿いの史跡を案内してもらいながら「松坂商人の館」へ向かった。江戸時代の



松坂商人の館にて

豪商を生んだ松坂は商人の町として大いに栄えたが、豪商の一つである小津家の旧宅を復元したのが松坂商人の館である。小屋組みが露出した広い土間、中庭から柔らかな光が入る座敷、そして本日特別公開という女中部屋などを見学することができ、参加者は往時の町屋建築を堪能することができた。

次に本居宣長旧宅跡の筋向いにある「旧長谷川邸」を訪れた。2013年に長谷川家から松坂市に寄贈された豪商の旧宅で、現在は日・祝日のみ一般公開されている。当日は土曜日ながら市のご厚意で特別に入館させていただいた。江戸中期に建てられた主屋は、ほぼ当時の状態で残されている貴重な文化財である。建物を見学しながら、調査の際に

蔵から出たという小判や御用箱など豪商の家ならではの生活用品も見ることができた。

お昼は、旧長谷川邸と軒を並べて建つ江戸中期の町屋「見庵」にて松坂牛肉弁当に舌鼓をうった。

午後は、幕末期に松坂城の警護武士の屋敷として建てられた「御城番屋敷」を見学したあと、本居宣長記念館と旧宅を見学し、帰路についた。

本居宣長旧宅でも普段は見学できない2階の書斎にも特別に上がることができ、今日は特別見学の多い幸運な一日となった。地元のガイドさんをはじめ、ご協力いただいた関係者の皆さんありがとうございました。

村林 桂 |  
村林桂建築設計事務所



### ■1月30日(土) 建築ウォッチング「建築家と四日市を歩こう」

建築ウォッチングの第2弾「建築家と四日市を歩こう」は、四日市市の東側に位置する『四日市旧港エリア』を散策し、最後にコンビナートの夜景クルーズに乗るという行程。夜景クルーズの乗船者数が一番少ないというこの寒い時期にもかかわらず、25名の方に参加していただきました。

JR四日市駅をスタートし、細い路地沿いに



幻想的な工場群・夜景クルーズにて

居酒屋が建ち並ぶレトロな商店街、現役最古の跳開式可動鉄道橋梁で重要文化財に指定された「末広橋梁」、波の力を弱めるため堤防の腹部に穴をあける工夫を凝らした「潮吹防波堤」など歴史的・文化的遺産のみならず、たくさん見どころを語り部の方に説明していただきました。また「寄生獣」「MOZU」などの映画のロケ地としてもよく利用される四日市港境界は、ファンにとってはたまらない場所だそうです。しかし、このエリアには軍需工場があったため太平洋戦争時に大空襲を受け、現存する名建築と言われるものは少ないのが、少し残念でした。

そして、夜の帳がおろる頃、夜景クルーズに乗船。千歳棧橋を出発して塩浜、石原、

霞地区の工場群を30人乗りのクルーザーで1時間かけて回ります。昼間見る殺伐とした工場群は幻想的な感じに変わり、多くの工場観賞愛好家からは四日市は憧れの「聖地」と考えられているそうです。

「しかし、このコンビナートも今から50年前はすごかった。今テレビで見る上海や北京の状況と全く一緒だった」と説明して下さる語り部さん。当時のいろんな苦労を公害の語り部として、四日市で後世に受け継いでおられるそうです。当然、今では臭いも、遠くが霞んで見えないということもないです。

四日市が観光のまちとして皆さまに親しまれるように、これからもこうしたガイドを続けていきたいとのことでした。

川崎貴覚 | 川崎建築設計室





## ■2月6日(土) 建築文化講演会「地域や地方でこそ感じる建築・建築家の役割」 建築文化シンポジウム「いざというときの建築・建築家」

三重県津市のアストプラザ4Fアストホールにて、建築文化講演会とシンポジウムを開催した。講演会は東北大学教授で建築家の五十嵐太郎氏に講師を依頼し、「地域や地方でこそ感じる建築・建築家の役割」と題して、具体的な例を参照し、貴重な話を聞かせていただいた。



建築シンポジウムの様子

後半は、今年の新たな試みとして、パネルディスカッションを行った。コーディネーターは引き続き五十嵐氏に、パネリストはJIA副会長・東北支部長の辺見美津男氏、三重県防災対策部長の稲垣司氏、三重県県土整備部建築開発課長の古川万氏、JIA和歌山地域会・災害対策委員長である森岡茂夫氏、そして、わがJIA三重地域会会長の中西修一氏の5名で、「いざというときの建築・建築家」というテーマで意見を出し合った。初めに各パネリストから詳細な事例報告や活動報告がなされて、その後の議論の流れがスムーズであったし、それぞれの取り組みや体験談はもっと聞きたいと思わせてくれる濃厚な内容であった。大

## ■2月7日(日) 建築ウォッチング「建築家と伊勢を歩こう」※五十嵐太郎氏同行

前日の建築文化シンポジウムの余韻が残る中で気持ちの良い朝を迎えた。2月7日、今年度の締めくくりとして、伊勢市の外宮(豊受大神宮)に新しくできて間もない、せんぐう館休憩所に、JIA三重会員の高橋徹氏を案内役に総勢24名が集合した。中には、県外からの熱心な参加者もおられ、前日の文化講



伊勢神宮別宮前にて

演会講師の五十嵐太郎氏、シンポジウム講師でJIA副会長の辺見美津男氏、和歌山地域会災害対策委員長、森岡茂夫氏の3名に、伊勢が地元の三重県建築士会の森本則見会長もご同行いただき、今までにない豪華な顔ぶれとなった。現地集合型の建築ウォッチングは、新しい試みかもしれないが、開始前と終了後のひときは、自由気ままな各々の時間が得られ、今の時代にあっていと感じた。

JR伊勢市駅を降りてからの最短ルートで、遷宮を終えたばかりの外宮に向かう参宮道は、新しく建て変わった店が並びながらも、至るところに「お伊勢さんの門前」を意識した誇りの高さを感じた。私自身にとっては、社

災害から時間が経ち、意識の低下も危惧される中、建築家と行政の垣根を取り払い、お互いにやれることや協力できることを模索し、実行していかなければならないと考えさせられた。

例えば、災害が起こってから考えたのでは遅く、災害が起こったときにどこに仮設住宅を建てるか、建てた住宅は仮設ではなく持続して住み続けられるものかなど、何事もない今だからこそ、しっかり考えて対策をしておかなければならないが、それは行政に任せるだけでなく、私たち建築家にもできることが多くある。

このような内容の濃いシンポジウムであったにも関わらず、広報不足により参加者が少なかったことだけが悔やまれる。

豊田由紀美 |  
Y's建築設計事務所



会人としてスタートした年から10年間通い慣れた過去のまちは、まさに第二の故郷とも言うべき格別な地域で、新しい発見もあり、とても懐かしく感じた。

今回、豊受大神宮の北御門から、月夜見宮を結ぶ通りを中心に界隈を歩いた中で、印象に残ったのは、本町から一志町を抜けて、(南北に抜ける道を小路、東西に抜ける道を世古とよぶ)宮町に現存する唯一の御師の邸宅、登録有形文化財になったばかりの丸岡宗大夫邸であった。これからの施設整備も含め、伊勢の地を訪れたいと感じさせる魅力ある建築ウォッチングであった。

伊藤達也 | 設計工房NEXT



## 復興の現場を通して見え始めた 私たちの社会の課題（後編）

JIA 東北支部（宮城） 都市建築設計集団 / UAPP 手島浩之



前回の稿では、「個人と公共の間の分離・分断・断絶」が、私たちの社会が自然に持っているはずのしなやかさを損なっていることに触れた。

現在、厚生労働省では「地域包括ケアシステム」という新しい福祉のあり方に切り替えようとしており、災害公営住宅の計画や「みやぎボイス」での議論によって、ようやくその思想を理解し始めている。これまで、福祉を必要とする人たちは一部のマイノリティであった。これまでの福祉制度は、そういった一部の人たちが施設に収容し介護することで成立してきた。ところが、高齢化社会では、福祉を必要とする人々がマジョリティとなる地域が多くでき始める。「地域包括ケアシステム」は、福祉を必要とする人とそうでない人たちの線引きを曖昧にし、地域での相互見守りによって地域内で福祉を成立させようということである。みやぎボイスで、厚労省の方は次のように表現している。「これまで、必要な人が福祉を求めて施設に行っていました。これからは福祉がまちにやってくる、福祉がまちに溶け込んでゆく、ということです」と。国としては膨れ上がる福祉予算をどう圧縮するか、追い詰められての窮余の策でもあるが、社会のあり方の大きな転換を、他に先駆けて始めたことに違いはない。

先日、今年のみやぎボイスに参加してくださる方のスカウトのために、丸一日東京の有識者を梯子した際には、ある都市防災の研究者と意見が一致した。彼いわく「方法はともかく、ある基準やシミュレーションに基づいて『行政が一本の線を引き、その内側が安全で外側が危険』いうことになってしまっていることに問題がある。リスクとは、可能性・確率の問題であり、本来は緩やかなグラデーションを持っているは

ずなのに、行政が線を引いてしまうことによりその自然な状態が失われてしまっている」「その一本の線を引いてしまうことによって、住民は完全に『安全の享受者』となってしまう、他方で、防災に対して『行政が一方的に責任を負う』構造が出来上がってしまった」

高度成長期には、河川の氾濫やさまざまな災害に対して、技術が向上すればいつかは克服できると誰もが信じていた。しかし、阪神淡路大震災でその思想はぐらつき始め、東日本大震災では「災害は絶対に克服できない」ことが明白になった。それでも、高度成長期の考えに基づいて、いまだにそういった線引きが行われている。それどころか、今回の津波被災地では、居住禁止区域を設定し、行政が明確に一本の線を引いてしまう結果になった。今後ますます、行政と住民は、「安全の保証人」と「安全の享受者」に分断され、それぞれの立場に追い込まれてゆくに違いない。

ではどうすれば、住民と行政の間での「安全の責任分担」において、自然な状態に戻ることができるのだろうか？「それについては、誰も見当もつかず、途方に暮れるしかない」のが現状である。

このように、私たちは「個人と公共の間」や、「福祉が必要である人かどうか」「安全と危険の間」などについて、緩やかなグラ

デーションで構成された、自然な状態を失っているのだと思う。個人が本来持っている「公共」という部分を外部化し、他人事にしてしまったのが現在の社会の姿である。個々人の中に公共の部分をもう一度取り戻し、より自然に近い状態に戻ることが、今後の社会に求められているに違いない。要するに、「自治」ということであり、「自己責任」ということであり、その代わりに自分の周りの「公共」については、自分たちの良いようにつくり上げ、好きなように維持管理を行うのだ。

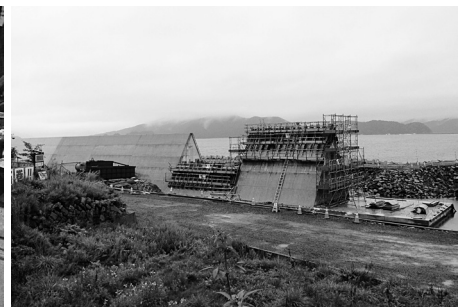
しかし、一方で、現在行政主導で進められる地域住民自治は、ただのマンションの管理組合程度のことでしかない、という指摘もある。地域社会が自分たちで自分たちの納得する自治の仕組みをどうつくり、どう創造的に運営してゆくか、今後はそういったことが問われるのだと思う。

今回の被災地では、急激な人口流出に直面し、地域を閉じなければならない場所も出てくるだろう。いくつかの地域は生き残りを掛けて最後の戦いを挑むことになる。その場合、これまでのように市や県や国は、上から地域の閉鎖を指示することはできないだろう。自治の権利を地域に分け与え、生き残りを掛けた最後の戦いを地域主体で行い「敗れた地域は自主的に地域を閉じる」ということにせざるを得なくなると思う。これはそれぞれの地域が、もう一度、自主的な地域運営の権利を取り戻すチャンスになるのではないか？

大きな災害は、自分たちの社会の仕組みを変える大きなチャンスでもある。東海地方を襲うであろう次の震災に向けて、私たちが経験し考えたことを、さらに深め、皆さんと分かち合いたいと思っている。



福祉領域で先進的な相互見守り相互扶助に取り組む牡鹿半島の例



建設中の防潮堤（長塩谷立神地区）



# 東海支部役員会報告

昨年から支部財政について支出の削減を検討し、できるところから実施をしてきましたが、これまで以上に収入の増加が見込めないことから支部会費徴収の議論が深まっています。支部事業の見直しを含め、健全な財政を目指して引き続き検討をしていくことになりました。会員の皆さまも関心を持って注視していただければと思います。

村松 篤 | 村松篤設計事務所



日時：2016年2月26日（金）16：00～18：20

場所：昭和ビル5階 JIA 東海支部事務局 会議室

出席者：支部長、理事1名、幹事10名、監査1名、オブザーバー 5名

## 1. 支部長挨拶

総会の準備を含め次年度に継ぐための取りまとめが大詰めに近づいてきましたので、よろしくお祈りします。

## 2. 報告事項

### (1) 本部報告

#### ①第30回 フェローシップ委員会 (2/4) (谷村)

- ・高校生、大学生対象のウェルカムオフィスは、次回理事会にて承認後開始予定
- ・全国コンペは、連氏とまちづくり会議が支援しコンペ要項や進め方を全国自治体などに利用してもらうため資料を作成中。次回理事会にて承認後開始予定
- ・近畿支部の「阪神高速道路」のコンペは、高架による騒音などの問題で実施遅延
- ・ウェルカムオフィスについてはリーフレットを作成。登録者は後日募集

#### ②第11回 本部広報委員会 (2/16) (奥野)

- ・HP内への入会案内完成。公開前最終確認（審議）を理事会に提出予定
- ・会員向けメルマガをHP内のアーカイブ化を検討  
建築家大会2015金沢のビデオレターがほぼ完成。近日中公開予定
- ・JIAロゴpdfはHPにて公開。イラストレーターのデータは本部事務局へ問い合わせ。運用規定については来年度以降
- ・大阪大会のHPは未完成だが、FBにて公開中

#### ③職能・資格制度+建築家資格制度実務 合同委員会 (2/17) (代理:鈴木祥司)

- ・JIA HP改定に伴う入会案内の文案について検討  
東海支部建築家資格制度実務委員会 (2/24) (代理:鈴木祥司)
- ・登録申込者の予備審査。内訳は、新規16名(対象者119名)、再登録15名(対象者53名)、更新75名(対象者87名)で、書類不備が増加。不備書類は3/4午前中までに到着すれば再受付

#### ④本部CPD評議会 (2/24) (塚本)

- ・本部で取り扱いのプログラム76件を審査。4月以降に視聴できるWEB動画を確認中

### (2) 支部報告

#### ①支部幹事会+第7回支部総務委員会 (1/29) (見寺)

- ・支部会費徴収を総会に挙げるのは時期尚早と判断、再度検討
- ・各事業については設立時趣旨との整合や効果を検証し、見直す方向で検討
- ・支部会費徴収ケースのシミュレーションを検討
- ・各地域会検討結果を支部総務委員会で議論。今期の支部役員会へ最終答申すべきでは？ (久保田)
- ・会員減傾向と支部事業見直しを併せて支部会費の是非を検討すべき (石田)

#### ②東海住宅建築賞委員会 (2/8) (吉村) ※審査委員は敬称略にて記載

- ・第4回JIA東海住宅建築賞2016の審査委員長は青木淳、審査委員に中村好文・長谷川豪
- ・登録期限は4/1～5/2、応募作品提出期限は5/2～6/1
- ・応募料はJIA会員が1点につき15,000円、非会員が28,000円に改定。
- ・写真の著作権は応募者負担明記、2次現地審査後公開審査、同日に表彰式まで実施。

#### ③退会届:正会員「黒野雅好 (A)」 「三浦泰秀 (A)」 「村山恒久 (G)」 (見寺)

#### ④三重地域会 JIA 事業活動助成申請「建築フリー 2016」(中西)

- ・建築文化講演会・建築文化シンポジウム・建築ウォッチング(計参加者276名)
- ・防災をテーマに行政とJIAの相互理解と連携を取りやすい状況ができた

### (3) 各地域会からの報告(各地域会長)

### 3. その他

#### 議事

##### 1. 審議事項

#### ①事業報告書 JIA 東海支部 伊東豊雄氏セミナー (11/27) (久保田)

- ・見学会79名、講演会218名(内会員95名)の参加。収支はほぼ予算通り

##### 2. 協議事項

#### ①2016年度 名誉会員候補推薦について (久保田)

- ・名誉会員候補者の推薦状および個人調書は4/15までに本部事務局必着。支部が取りまとめ、各地域会にて候補者選定

##### 3. その他

#### ①日程確認「支部監査」「2016年度地域会総会・監査」「2017年度総会」(久保田)

- ・支部監査:4/12(18時～)、4/14支部役員会にて審議予定
- ・2016年度地域会総会:静岡(4/25)、愛知(5/13)、岐阜(4/27)、三重(4/22)  
監査:静岡(調整中)、愛知(4/12)、岐阜(調整中)、三重(4/7or8にて調整中)  
三重の総会4/22は愛知役員会と重なるので調整可能か(石田)
- ・2017年度総会:2017/5/12

#### ②2016年度 東海支部議案書について (久保田)

- ・各地域会事業報告を3/10までに支部事務局へ提出

#### ③支部事務局 コピー機リースおよびPC保守契約の見直しについて (久保田)

- ・リース料、基本印刷代、ネットワーク保守料を見直し、合計で87,000円/年の削減

#### ④中部公共建築設計懇談会 (2/8) (石田)

- ・中部地方整備局から資料提供。管内の各行政と士会・士事協・JIAで懇談
- ・JIAからはデザインビルドについて今後の取り組みを尋ねたが、地方行政の職員はデザインビルドについての認識なし
- ・三重県士事協からは増改築改修工事における設計の業務量算出について、小規模改修工事は手間がかかるので期間や単価を考慮してほしい、見積調書の5社見積を改善してほしいとの要望あり

#### ⑤本部事務局会議に関して (見寺)

- ・源泉所得が関係する謝金についてマイナンバー確認の本部報告。書類は本部で作成いただきたいと伝えた
- ・会員会費システムについて、正会員・シニア会員以外のシステム入力支部で行ってほしい
- ・支部としてはマイナンバーについては、管理体制が整うまで受けない(石田)

#### ⑥ARCHITECT 収支概要について (牧)

- ・全体の予算把握をするための収支予想を提出





## Bulletin Board

世界劇場会議名古屋 フォーラム2016

### 劇場の再生～ロームシアター京都の事例を通して考える～

CPD 単位申請中

#### ■日時・会場

2016年6月10日(金)(受付13:30～)

愛知芸術文化センター12階 アートスペースA 他

(名古屋市東区東桜1-13-2)

#### ■スケジュール

○14:00(アートスペースA)

開会

○14:05～15:20

第1部「京都会館からロームシアター京都へ」

講師:平竹耕三

(京都市文化芸術政策監・ロームシアター京都館長)

聞き手:松本茂章(静岡文化芸術大学文化政策学部/大学院文化政策研究科 教授)

○15:30～16:45

第2部「京都会館」の改修一何を保ち、何を変えたか」

講師:香山壽夫

(東京大学名誉教授・香山壽夫建築研究所所長)

聞き手:清水裕之(名古屋大学大学院環境学研究科 教授)

○17:00～18:15(アートスペースE・F)

～U30 サロン@世界劇場会議名古屋～ \*30歳以下限定  
劇場で働きたい学生&若者、必見!

フレッシュな劇場職員とワイワイ楽しくおしゃべり!

○18:30～20:00

交流会(会場:Veg bang)

#### ■参加費

○フォーラム参加費

一般 2,500円(ITCN会員2,000円)

学生 1,500円(ITCN会員1,000円)

○U30サロン参加費券 500円

○交流会参加費 4,000円

#### ■参加費振込先

口座番号:三菱東京UFJ銀行 栄町支店 普通 1186768

口座名義:NPO法人世界劇場会議名古屋

※確認のため、振込を証明する書面をFAXなどにて事務局まで送付ください。

#### ■申込先・事務局

NPO法人 世界劇場会議名古屋(ITCN)

〒460-0002 名古屋市中区丸の内1-14-12 グランビル2B

TEL/FAX 052-232-2270

MAIL itcn@itc-nagoya.com

HP <http://itc-nagoya.com>

## 地域会だより

### <東海支部>

2/26 支部役員会

3/25 支部役員会

5/13 支部通常総会

### <静岡>

1/22 平成28年建築関係団体新年会を共同開催

2/10 2月静岡地域会定例役員会の開催

3/4 3月静岡地域会定例・拡大役員会の開催

第3回JIA塾「建築家賠償責任保険講習会」の開催

3/9 第68回静岡県建築文化研究会講演会・建築五団体による開催  
講師:建築家 小堀哲夫「環境との対話～建築をつくるということ～」

4/25 2016年度通常総会の開催。総会后、記念講演会および懇親会を開催

### <愛知>

1/15 法人協会商品PR会+新年会

2/4・10 JIA実務セミナー 古澤弁護士を招いて(モンスタークライアントとのトラブルに備える)

2/15 愛知役員会+法人協会CPD研修会

3/4 愛知役員会持出し(豊田エコフクタウンおよび逢妻交流館)

3/9 愛知・会員委員会+JIA・愛知法人協会役員会

5/13 愛知・通常総会

6/26～27 住宅研究会 全国会議 郡山視察

### <岐阜>

2/5 JIAの窓、岐阜地域会 第6回役員会 開催

場所:コア2階(岐阜市美殿町37)

講演:一部「まちづくり」(栗本真壱氏・車戸慎夫氏)

二部「CPDについて」(藤井孝一氏)

3/10 平成27年度 JIA 岐阜地域会 第7回 役員会(18:30～20:30)

場所:ハートスクエアG 小研修室1

4/27 岐阜地域会 通常総会・懇親会開催(17:00～20:00)

場所:ホテルグランヴェール岐山

総会:5F乗鞍の間 懇親会:5F飛翔の間

### <三重>

1/23～2/7 建築ラリー 2016

建築ウォッチング「建築家と松阪を歩こう」(1/23)

建築ウォッチング「建築家と四日市を歩こう」(1/30)

建築文化講演会・建築シンポジウム(2/6)

「被災地写真展示」写真師・松原豊氏ほか

建築ウォッチング「建築家と伊勢を歩こう」(2/7)

3/11 第8回例会、第7回役員会(三重県総合文化センター)

# 弔りこころ、大切な葬儀

## 葬儀のこと、お応えします。

一柳の葬儀は、各種・価格を段階的に用意いたし、ご希望される予算に合わせてお見積りいたします。宗教・宗派、葬儀規模の大小にかかわらず、全ての葬儀に丁寧にお応えしています。

いちやなぎ斎場は、365日・24時間、いつでも病院・施設等から直接入れます。

### いちやなぎ中央斎場

名古屋市千種区千種二丁目19番1号  
TEL (052)745-1212

### いちやなぎ野並斎場

名古屋市天白区野並三丁目538番1号  
TEL (052)899-0111

◆葬儀のお申し込み◆お問い合わせ◆事前相談は

TEL.052-251-9296

365日・24時間 一柳のスタッフが対応いたします!

創業138年の伝統と実績



株式会社

一柳葬具總本店

<http://www.ichiyalagi-sougou.co.jp>

### イチヤナギ倶楽部

- 入会金1万円のみで掛金不要、基本価格の2割引と交通事故傷害保険の特典取得
- 相続、遺言、後見制度など相談先の紹介が受けられます



## 編集後記

●あの未曾有の災害から今年で5年の節目を迎えた。私たちJIAの会員すべてが、東北から遠く離れた人たちでも、あの瞬間を、刻々と伝わる映像を、驚愕の目で映画のように眺めたに違いない。あのとき最初に感じた二つのことが蘇る。一つは9.11のときと同様、非現実的な状況が絵葉書でも見ているようにただ映し出されることへの驚き。もう一つは建築の分野に携わるわれわれに、果たして何ができるのか、どう受け止めていいのかという自問自答。先月号と今月号に手島浩之氏が寄稿されている「東北からのメッセージ」は受け手によっていくつもの問いかけとなり降りかかるように思われる。われわれが真摯に向き合わなければならないことだろう。当時、始めたばかりの3.12の自身のtwitterを見てみた。「街が僅か1時間でなくなってしまうとは。想像だにできない光景だ。多くの人の思いと汗と時間を僅か1時間でのみこんでし

まった。都市とはそんなものなのか」。

(黒川喜洋彦)

●東海支部役員会報告で、高校生・大学生対象のウェルカムオフィスが議題に上っている。近年は、オープンデスクに元気の良い女子学生が増えてきたように思う。そんな中、ここ数週間「保育園落ちた日本死ね」が気になっている。以前、若い建築家にチャンスを与えない国内プロポーザルの現状を指摘した文章を本誌に寄稿した。この保育園問題も同根ではないか。若者が未来に希望を持ってなくなった社会は衰退する。今、私の事務所を含め多くの事務所で女性が働いている。彼女たちは優秀で、出産を機に働けなくなってしまうとしたら、それは大きな社会的損失だ。数年の経験を経てしっかりと実務能力をつけた人間が、社会のバックアップがないばかりに能力を発揮できない状況を少しでも改善できないものか。設計事務所の仕事は元来フレックスタイムになじむ業態だ。働く人の状況に合わせた上手いシステムがつかれないかとアタマをひねり始めている。(伊藤恭行)

### 【お詫びと訂正】

「ARCHITECT」3月号p14登録有形文化財写真キャプション部分に誤りがありました。誤：湯之洞水道橋→正：湯之洞水路橋  
読者の皆さま、関係者各位にお詫びするとともにここに訂正いたします。

### ARCHITECT

第331号

発行日 2016.4.1 (毎月1回発行)

定価 380円 (税込み)

発行責任者 石田 壽

編集責任者 牧ヒデアキ

編集 東海支部会報委員会  
愛知地域会ブリテン委員会  
建築ジャーナル内  
ARCHITECT 編集部

名古屋市東区泉 1-1-31 吉泉ビル 703

TEL (052)971-7479 FAX 951-3130

発行所 (公社)日本建築家協会東海支部

名古屋市中区栄 4-3-26 昭和ビル

TEL (052)263-4636 FAX 251-8495

E-Mail : shibu@jia-tokai.org

<http://www.jia-tokai.org/>